

# 自彊前進

NO. 15 平成28年12月21日(水)  
附属新潟中学校 学校だより

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと(校歌3番の詞から)

## 2学期終業式 校長講話

校長 柳沼 宏寿

2016年がまもなく終了しますが、皆さんにとってこの一年はどんな年だったでしょうか。私は4月に附属中の校長として赴任して以来、みなさんの生活ぶりには感心させられることが多くありました。とりわけ、あらゆる学校行事や生徒会活動を「自主独立・協同」の精神に基づきながら推進している姿に、多くの感動をいただきました。その中でも、生徒会から「自由」の解釈について改正案が出されたことが強く印象に残っています。戦後の民主主義において、私たちは「表現の自由」を得ることができましたが、その反面で社会的な秩序や道徳・倫理を無視して、つまり、自分以外の人に迷惑をかけるような振る舞いが「自由」を盾にして横行している側面もあります。その意味で、生徒会委員長の銀田さんから出された提案「自由とは周囲の状況や相手の立場を考えた上で、活動をよりよくするために発言や行動できる自由」というものは核心に迫る内容であったといえます。それを受けて全校で活発な議論が交わされていましたが、真摯に問題に向き合おうとするみなさんの姿勢や、一つ一つの建設的な意見それ自体が、提案されている「自由」の意味を体現しているかのようでした。最終的に提案は否決されましたが、このことをきっかけに「自由」についての話し合いが持たれたことに大きな価値があったと思います。

ところで、3年生の入学式の折、私が学部長代理として祝辞を述べさせていただいたのですが、その中で坂口安吾に触れたことを3年生のみなさんは覚えていますか。近代日本を代表する文豪で、「墮落論」や「白痴」などの著者である坂口安吾は、この西大畑が生誕地です。安吾の文章は難解でおどろおどろしい表現もあり、読んでいて決して心地よいものではありません。その安吾が、なぜ戦後の日本を支えたと評されているのでしょうか。安吾は、敗戦によって荒廃し、どん底に突き落とされた日本の風景を、彼の目線で描写しました。醜いものや汚いもの、そして目に映るものばかりでなく、人間の欲望やずるさなど、一般にはタブー視された心の裏側までも浮き彫りにしたのです。それは表現として「美しい」といえるものではないのですが、当時の人々はそこに同じ人間としてのリアリティを感じたのです。認めたくはないけれども、まぎれもない現実、そして、まぎれもない自分の姿、それを改めて気づかされることによって、進むべき未来のイメージを思い描き前進することができたのです。

このように、自分のことを客観的に見る経験を心理学の用語で「メタ認知」と言います。例えば、ビデオに映った自分の姿を見て、声や仕草に違和感を感じたことがあるかと思います。それまで気づかないでいた自分を知る経験、それが「メタ認知」です。私たちは「自分にはこんな良いところがあったのか」と気づくことによって自信が湧いてきたり、自分のおかしいところやまずいところ気づくことによって為すべき方策がわかったりします。つまり、自分の現状を知ることによって未来のビジョンがイメージされ、そのイメージによって行動が導かれるということです。

それを学校の学びに生かしている例として、福島県いわき市立豊間小学校が取り組んだ映画制作があります。2年生の中で附属小から来たみなさんは、6年生の時に私が講話の中で紹介した映画なので見たことがあるかと思います。あれは、東日本大震災の被災地の子ども達が、精神的な苦しみによって前に進めなくなった状態、いわゆる「PTSD(心的外傷後ストレス障害)」という問題から立ち上がろうという試みでした。自分の家族や住んでいた家を奪われてしまうという大変つらい思いを経験して、数年経過した今でも心の苦しみから逃れられないでいる子ども達が被災地にはまだたくさんいます。そのような状態から立ち上がり前に進むために映画作りに取り組んだわけです。本当は思い出したくもないつらい現実ですが、あえて正面から向き合って映像に収め、作品として表現することを通して、今の自分の立ち位置を確認し、そしてそのことによって未来へのビジョンを抱くことができたそうです。

自分を知るための「メタ認知」。実はこの附属中でも、先生方がみなさんに「メタ認知」をもたらすための工夫を凝らしています。授業の振り返りやグループ学習、ポートフォリオなど、普段取り組んでいる学習の多くに、自分の学びを客観視し現状に気づくことによって進むべき方向をイメージさせようという意図が込められているのです。

ところで、冒頭で触れた生徒会の「自由」をめぐる話し合いを見ながら、私はエーリッヒ・フロム(Erich Fromm, 1900-1980)という社会心理学者の自由論を思い出しました。フロムは「自由」の意味を「～からの自由(消極的自由)」と「～への自由(積極的自由)」という視点から分類しています。「～からの自由」は、自分を束縛する制約から解放される自由を意味します。一方「～への自由」は、目標像があって、そこに立ち向かう創造的な自由を意味します。フロムは、単なる解放としての「～からの自由」では不十分であり、「～への自由」のあり方を<個人と社会の関係>の中で模索する必要があると述べています。まさに、みなさんが展開していた「自由」についての議論が重なっています。

さて、どこへ向かっての自由なのか、「～」のところにはみなさん自身がイメージする未来像を当てはめる必要があります。二学期始業式の講話で、私はみなさんに「自分の目標をイメージしてください」と言いましたが、年の瀬にあたり、それを再確認し軌道修正することも必要かもしれません。そのためのヒントは「メタ認知」にあります。ぜひ、友達や先生そして家族とじっくりと話し合いながら、改めて自分の立ち位置を把握し、進むべき目標をイメージしていただきたいと思います。そのことがみなさんの内なるパワーを発揮する引き金となるはずです。どうぞ良いお年をお迎えください。

### 生徒の活躍

- 第16回創造ものづくり教育フェア IN えちご(技術・家庭科)
  - 新潟県教育長賞 2-1 大河内詩歩
  - 全日本技術・家庭科研究会会長賞 2-1 若井知佳
  - 新潟県技術・家庭科研究会会長賞 1-2 宮川真緒
  - 優秀賞 3-1 藤田 舜 1-2 伊藤敬子 1-2 森田 彩
- 第55回関東甲信越地区中学校技術・家庭科生徒作品展(技術・家庭科) 出展 3-1 米山太賀
- 第49回「お金の作文」コンクール(社会科)
  - 日本銀行総裁賞 3-3 高橋まりあ
  - 佳作(全国で50名) 3-2 松山明日葉 3-2 渡邊映人 3-3 松井憲生